¡Hola amigos!

R と N の Málaga からの手紙

（０１４号）

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。　ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

２００３年　９月１２日　　Ｒ　＆　Ｎ

目次	更新日
身辺雑記	２００３年　９月１２日
エクスカーション	２００３年　９月１２日

ご注意　：　各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。

悪しからず。

＊身辺雑記＊

「秋の気配」ノ巻　２００３年９月１２日　更新

ガリシアに行って来ました。旅の様子はエクスカーションの項をご覧頂くとしてここでは詳しくは触れないでおきます。

丁度一週間の旅でしたが、帰ってみるともっと長旅をしたようにも感じられます。

一つには６泊の全てが同じホテルでの宿泊で、旅行というより言わば短期滞在をしたような状態だったからだと思います。

もう一つは我が家の周りの状態が留守中に少しかわってきた為かも知れません。帰って来てすぐ感じた事は、６月末暑くなると同時に始まった喧騒が少し治まったかなということです。でも周りのオテル・アパルタメントを見る限り短期滞在の客数が激減したというわけではないようです。朝晩の涼しさが夜中の馬鹿騒ぎを抑える作用をしているのでしょうか、イヤむしろ日中の耐えがたい暑さが多少緩和されたので日がな一日海水浴などをして、夜はぐったりグッスリということになっているのでしょう。

周りの各商店も、夏の間自分たち自身のバカンスのために長期休業をする店がかなりありましたが、９月の声を聞いてそれぞれ元に戻っているようです。

私達の感覚では、客が押寄せるバカンス・シーズン真っ盛りに、日銭の入る客商売を一ヶ月も休んでしまっていいんだろうか、と他人事ながら気になりますが、全然そんな心配はしていないようです。

日中の陽射しの強さは相変わらずですが朝晩の涼しさと、周りのこういう変化がなんとなく秋の気配を感じさせる今日この頃です。思いなしか空の青さも色濃くなりつつあるように見えます。

私達の滞在も１０ヶ月を超え、そろそろアパルトメントの契約更新を考えなければならないし、来年一月迄有効のタルヘタの更新手続きの準備もしなければなりません。

今回の更新手続きは全て独力でやらねばならず些かアタマの痛いところです。

今度の旅行でつくづく感じたのは、カディスへの旅で感じたのと同じ様に、本当のス

ペインに触れたように思えたことです。ひっくり返せば今住んでいる所は本当のスペインではないということです。ここはやはりイギリス租界又はＥＵ租界とも言うべき所でしょう。ヨーロッパの国々がＥＵという枠に括られて、経済的に自由な交流ができるようになり物価の高い国の人が物価の安い国に流れてくるのは必然です。

しかし、ここコスタ・デル・ソルという一大リゾート地はあまりに地の利があるため外国人の人口比率が高くなりすぎてスペインであってスペインでないというおかしな現象になっています。例えば言葉一つとっても、ここではスペイン語を一切話せなくても生活に不自由はありません。そういう外国人を受け入れる事でこの町の経済は成り立っているのです。言い訳めいていますが、だから私達のスペイン語も一向に進化していないのです。今度の旅行では乗客は私達以外全員スペイン人で、乗客の一人が英語を話しましたが肝心のガイドすら英語は片言。こういう環境に置かれればいやでも辞書を引く回数も増え、出鱈目ながらも何とか意思の疎通を図る努力もするようにならざるを得ません。けれども、コスタ・デル・ソルに居る限り真のスペイン、裸のスペイン人に触れることなく過ぎてしまうことになるのでしょう。

タルヘタ更新の可否次第ですが、マジメにヨソの地域への引越しを考えています。

ところで、今週号から暫くはこの雑記以外はエクスカーションの項のみの更新とします。買い物も食べあるきもヴィノも全てエクスカーションにひっくるめ、です。

既に終了しているセルベサは今週、バックナンバーは次週、項目ごと削除します。

また一部の方から、このＨＰの保存についてご質問がありましたが、最初にお断りしたように、更新後一ヶ月を経過したものは画像と共に全て削除していますので再生は不可能です。毎号のアップロード時に削除していますから、皆さんが毎週アクセスするたびに古いものが削除された新しいページを呼び込むわけです。皆さんのＰＣにも私達自身のＰＣにも古いページは残っていません。

これとは別に毎号プリントでご覧頂いている方には必然的にプリントは残るわけですが、今となってはプリントも７月以前にさかのぼるわけにはいきません。

悪しからず、ご了解ください。

＊＊＊

＊エクスカーション＊

さて、ガリシアです。今回の遠足はチョット長くなりましたので、何号かに分けてシリーズでご紹介します。

＊＊

「ガリシア」の巻・その一　２００３年９月１２日　更新

（ツアーの概要）

ガリシア（Galicia）という所はスペインの北西角の部分の比較的小さな州です。今回、私達が訪れたのは、そのうちポンテベドラ県（Pontevedra）とア・コルーニャ県（A Coruña）の二つです。またこの州は北西角ですから、北の海に面した部分と西の海に面した部分があるわけで、前者はリアス・アルタス（Rias Altas）、後者はリアス・バハス（Rias Bajas）と呼ばれています。又角中の角、即ち前者と後者の接点である小さな範囲はリアス・ガリェガス（Rias Gallegas）ですがここへは今回は行けませんでした。ちなみに、日本でも三陸海岸のように複雑に入り組んだ地形をリアス海岸と言いますが、そのリアスとは正にここのことなんです。

このツアーは私達にとってはとても不思議な構成でした。六泊七日片道約１３００キロの旅でしたが現地では六泊全て同じオテルの同じ部屋ですから、ちょっとした短期滞在のようでした。そして更に驚いた事は少し遠出をした三日目を除き、三食全てオテルでとりしかもシェスタの時間もしっかり確保されているんです。正に三食昼寝付き、ダレカさんとおんなじです。

私達の乗った便は南海岸マルベーリャ（Marbella）出発の路線でしたが、そのほか南西部のカディス（Cádiz）や南東部のアルメリア（Almería）からの出発便があり、それぞれが途中のピックアップ・ポイントで客を拾い集めながらマドリード（Madrid）に集結。そこで更に何人か乗客を加えた上、私達が行ったガリシア組と東隣のアストゥリアス（Principado de Asturias）組に分けるのです。三方面から三台のバスを首都に集めて、二方面三台に振り分けるわけですね。最終的には三台ともほぼ満席でした。

そして、帰りはこの逆で二方面から首都に帰って来た三台の乗客を三方面三台のバス

に振り分けてそれぞれの乗車地へ送り返すのです。実に合理的で、無駄のない、しかも乗客にも便利ないい方法だと思いました。

恐らく日本ではこういう形式のツアーはないだろうと思います。第一、片道１３００キロ１９時間なんてバス旅行はとても売れませんよね。道路事情の良い、そしてバス旅行になじんだ、スペインならではの企画でしょう。

このツアーでいったい何キロ走ったのか正確なことはわかりませんが、片道１３００キロ、現地で中五日毎日少なくても２００キロ平均は走っていると思いますからこの合計が１０００キロ、全部で３６００キロ以上走ったことになります。此の間一度も渋滞には会いませんでした。不思議な事に、日帰りツアー即ちアンダルシア州内ではバスに乗るたびに見た事故も、この旅ではついに一度も見ませんでした。

飛行機にしろ鉄道にしろ大都市間はまずまずなのでしょうが、チョッと外れた所だともういけません。便数は少ないし、高いし、です。その点バス旅行はパックでなくてもやはり一番安く便利で、特急以外の鉄道と較べても決して遅くないようです。

ここで一つお断りしておきますが、ガリシア地方にはガリエゴ(Gallego）という独特の言語（方言と言ったら地元民は嫌な顔をするでしょうね）があります。現代スペインの標準語と言えるカステヤーノ(Castellano)とは違う綴りを良く見かけたし、私達の標準語辞書にはでていない単語もアチコチで見つけました。冒頭のア・コルーニャという言い方もガリシア語で、標準語ではラ・コルーニャ(La Coruña)です。

また、逆にリアス・バハス(Rias Bajas）は標準語で、現地では Rias Baixas と書いています。私達はこの正確な発音はわかりませんが、根っからのガリシア人、オテルのフロント・オバちゃんに言わせると「バ(イ)シャス」と聞こえます。(ja）を（xa）（jo）を（xo）と書くことが多いようですが、それだけでなく（x）の前に（i）が入ったりします。発音も単純なハやホではない様です。文中でもガリシア語表記や標準語表記が入り乱れますが宜しくご理解ください。特にスペイン語勉強中のかた、悪しからず。旅行中アチコチでガリシア語の辞書を探したのですが、これだ、と出されるのはどれも大型のものばかりで、ポケット版は見つからず、とうとう諦めました。

＊＊＊

（第一日目）家～カンバドス(Cambados)

いよいよ１３００キロ、１９時間のバス旅行の始まりです。１２～３時間の飛行機旅行でもいいかげんウンザリなのに１９時間とは。どうなる事やらと実は密かに案じていました。腰痛ベルトの用意もおさおさ怠りなく、荷物はなるべく少なく、でも北はもうかなり冷え込む時もあるらしいので防寒対策もして、さて、出発です。

私達の乗り込んだバスの出発点はマルベーリャ Marbella。途中、次のような経由地で客を拾いながらまずマドリード向けです。興味がおありでしたらお手許にスペインの地図を用意してたどってみて下さい。地図にない所もあるとは思いますが・・。

フエンヒローラ Fuengirola、我が町＝ベナルマデナ Benalmádena、トレモリノス Torremolinos、マラガ Málaga、アンテケーラ Antequera、グラナダ Granada、ハエン Jaén、リナレス Linares、そしてマドリード Madrid。

ウチからベナルマデナの指定の乗り場までは、ゆるい坂道を下って１５分ほどですから、小さいリュックをしょって機内持込サイズの鞄を引っ張って楽に行けます。

予定時間は８月３１日０１：１５でしたが、まさかこんな遠くから満席になる事はないだろう、とすれば早めに来るかもしれない、と３０分ほど早く出かけたのでバスを待たすことなく丁度一時頃に来たバスにタイミングよく乗れました。

私達が乗ったときの先客はマルベーリャからの二組の老夫婦だけ。実はそれから一週間この四人組とは常時一緒に食事をする羽目になるのですが、そのときはそんな事になるとはお互いに知らず、取りあえず初対面の挨拶、といってもブエナス・ノーチェスだけですが、暖かくいい感じで迎えられました。

それ以後グラナダまでは客もなく素通り、グラナダで十数人の乗客とガイド嬢も乗り込んできました。このガイド・ネーさんはイサベル(Isabel)、スペインをムーア人の支配から取り戻した歴史上の人物と同名ですが、女王様の気品はないかわり超庶民的で親しみやすい気楽な、ややトウのたったお嬢さんでした。

彼女は乗ってくるなり私達のところへ来て、スペイン語話せます？　駄目？　私も英語駄目なの、じゃ、いつも私に付いて来てね。まあ、お互い片言で何とかなるよ私達のことを特別に気にしてくれなくてもイイヨ。　ほんと？バレ(vale)？＝ＯＫ？

バレ。 というようなやり取りがあって、とりあえずお互いホッとしたりして。
多分会社から、変なのが一組入ってるからナ、と言われていたんでしょうね。なるほど以後どこで乗ってくる客もスペイン人らしいのばかり。結局マドリードでガリシア行きのバスに乗り換えた時、外国人は私達二人だけということがはっきりしました。こんな形のバス旅行に参加する外国人はあまりいないんでしょうね　だからガイドも普通はスペイン語だけで事足りているわけです。
ソレはともかくマドリードに着いたのは、ほぼ正午。私達が乗ってから既に１１時間が過ぎています。私達のところからマドリードまでは６００キロ少々なのに、どうしてそんなに時間が掛かるかというと、各ピックアップ・ポイントでの乗車にも時間がかかるし、少なくても走行二時間に一回はカフェ休憩があるしで、高速道路を順調に飛ばしている割には距離がのびないんですね。そのかわりしょっちゅうバスから降りて体をのばせるので、エコノミー症候群も腰痛も全くの取り越し苦労でした。

（マドリードの闘牛場、私達が今まで見た中では一番大きい。但し新しく、　建造物としての　味わいは薄い。ここでバスの乗り換え）

さて、バスは前述の通りアチコチで乗客を拾い集めてマドリードに着くと真っ直ぐこの闘牛場に向かいました。というより、闘牛場は高速道路のすぐ脇に有るし、マドリ

ードからの利用客も来易いところだし、日曜の午後以外は閑散としているのでこのツアーのようなバスの乗り換え地点としてはもってこいなんでしょう。私達が着いた正午頃は写真のように殆ど人影がありません。あァ、ここで午後と言っているのは少なくても昼食とシェスタが終わった１７時以降の事をさしていて、日曜の正午は限りなく「アサ」なんですね。

このツアーのバリエーションとして、往きも帰りもマドリード一泊というコースもあったんですが、私達にとっては当面プラド美術館位しか行きたいところもなく、この町は物騒なだけという印象なので、今回はパスとしたのです。

マドリード以後はガリシア行き一台とアストゥリアス方面二台に分かれました。ガリシア行きに乗ったのは５５人、丁度バス一台ピッタリ。例のマルベーリャ４人組もガイドネーも一緒です。そのほかマドリードまでに見知った顔も、新たに違う方面のバスで来た人も入り混じりこれからの一週間を一緒に過ごす集団が出来上がりました。

同じ所を目指すことで既に何となく連帯感らしいものも感じられる雰囲気です。

でも、殆どの人が、アレッ、変わったのが混じっているなと思ったらしくて、何となくチラッと視線を感じましたが、決して感じの悪いものではありませんでした。みんな、こんなスペイン人ばかりのツアーに混じりこんできた日本人(らしいの)に好奇心をかきたてられたんでしょう。このことはそれ以後常に私達にはプラスに作用して、旅行中ずっと何かにつけ私達に色々気遣いをしてくれているのがよく分かりました。

マドリード以後はもう乗り込んでくる客もなく、カンバドスに向けてまっしぐらですと言いたい所ですが、相変わらずカフェ休憩が頻繁に入り、昼食休憩もたっぷり一時間以上。これではエコノミー症候群など有るわけないです。みんな休憩のたびにトイレだけでなくよく飲み食いするんです。底が抜けているんじゃないかと思うくらい。

ガイドネーも、客が皆乗ったことを確認して最後に乗り込んでくるときもまだ口をモグモグさせています。そして、昼食ともなれば旅の途中だなんてことは頓着せず、ゆっくり時間を掛けて街道筋のレストランでビノ呑み放題のメヌー・デル・ディア（本日のオススメ）。私達が選んだのは煮野菜 verduras cocidos と魚のフライ pescados fritos のコース。各種野菜スープ煮はマル、魚はメルルーサでバツ、ビノはアグア。

バスは以後ベナベンテ Benabente、オーレンセ Ourense、ビゴ Vigo、ポンテベド

ラ Pontevedra を経由してようやく宿に着いたのは２０時３０分過ぎ。丁度日没だったので荷物を部屋に放り込んで、すぐ近くの海岸へ飛び出しました。

（カンバドス海岸の夕日 sol poniente、残念ながらオテルからは見えません）

（わが宿、カディスの時よりワンランク・アップの二つ星）

オテルは質素ながら清潔且つ快適、その名も A Mariña。これが又辞書には見つからないんですが多分標準語では La Marina ではないかと勝手に考えています。まあ、意味はどうでも、嬉しくなるような名前です。夕食は２１時３０分。メヌーはなんとナント煮野菜とメルルーサ・フリート。これには大ブーイング。私達と同じ昼メヌーだった人も多かったでしょうからね。＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊